

# 次世代研究インフラ構築に係る 新たなワーキンググループの設置について

令和8年8月7日

研究振興局参事官（情報担当）付

# AI for Science の推進に向けた基本的な戦略方針（具体的目標例）

- 我が国の AI for Science の取組は、科学研究のあり方そのものを変える国家的挑戦。
- 第7期科学技術・イノベーション基本計画（2026～2030年度）期間となる**今後5年間を集中改革期間と位置づけ、スピード感を持って推進するため具体的なアクションを設定し、大胆な投資により取組を加速する。**



## 次世代研究インフラとして一体的に強化

- 日本の取るべき基本戦略は、日本の資産とリソースを最大限に活用し、勝ち筋になり得る分野等の研究力を世界のトップ水準に引き上げることにある。
- そのために、**国としての推進体制を構築し、研究インフラ及び研究システムを抜本的に改革する。**
- あらゆる分野へAI for Scienceを波及・浸透させ、**2030年には、全国どこでも誰でも、AIを駆使した高度な研究活動が可能となる社会を実現**する。

# AI for Scienceを支える次世代研究インフラの構築

研究活動におけるAI利活用(AI for Science)において「世界で最もAIの開発・活用がしやすい国」となり、「科学の再興」を果たすため、我が国の実験基盤・データ基盤・計算基盤を統合的かつ戦略的に強化するとともに、これらの基盤を高速・高信頼・シームレスに接続し運用可能とするシステム(パイプライン)を開発・整備することにより、オールジャパンでの次世代研究インフラを構築する。

## 【イメージ】

### ● 実験基盤

自動実験設備やシミュレーション、大型研究施設利用等を通じた**高品質な実験データの大量創出**

- 共用自動実験拠点を3拠点以上形成
- ダークデータの収集・共有・再利用の推進

### ● データ基盤

統合的な研究データ基盤の利活用による実験データの**高速なAI Ready化**や**セキュアな一元管理**

- 共用ストレージを現在の5倍以上に増強
- 各データ基盤の一体的運用と機能強化

### ● 計算基盤

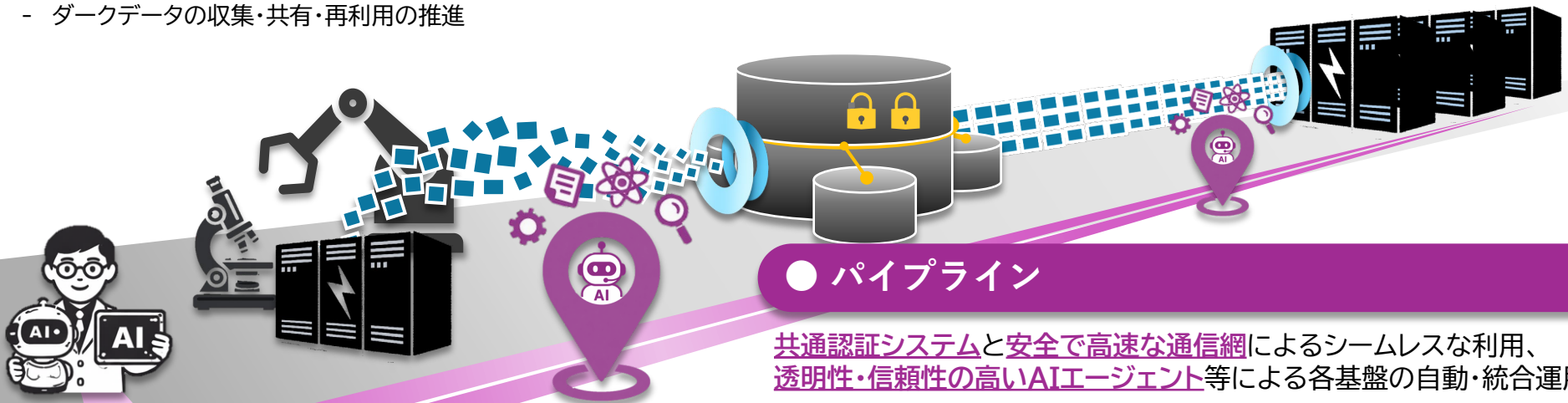
大規模計算や高度なデータ解析を支える**世界最高レベルの利便性を備えた共用計算基盤**へのアクセス

- 共用計算資源を現在の10倍以上に増強
- システムの相互運用性や即時利用性の向上

### ● パイプライン

共通認証システムと**安全で高速な通信網**によるシームレスな利用、透明性・信頼性の高いAIエージェント等による各基盤の自動・統合運用

- 認証とUIの共通化
- データ流通の2倍高速化
- AIドリブン型基盤の開発・実装



AI for Scienceの飛躍的加速(発見・設計・検証の高速化)

AI時代の主導的地位の確立と国際共同研究の中核拠点化

産学官連携の深化によるイノベーション創出の拡大

参入障壁の大幅低下(新規研究者の増加)

## 新たなワーキンググループの設置について

- 「AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針」を踏まえ、具体化を進めている「次世代研究インフラの構築」は、実験基盤、データ基盤、計算基盤等の各基盤の一体的な整備や高度化、制度改革などを要するものであり、今後、全分野に影響する大規模な国家プロジェクト的取組である。
- システム間連携及びAI対応に必要なAPI等の共通化、統一の認証やインターフェース、ポイント制の段階的導入といったこれまでにない新たなシステムの実装に向けた、基盤横断的な具体的計画や要件設定等が不可欠となる。
- これらの検討には、国家基盤として成立させるための俯瞰的かつきめ細かな知見や方針に係る議論が必要であるとともに、取組開始後の継続的なフォローアップや、進捗評価を踏まえた各種の追加的取組も見据えたアジャイルな計画更新も不可欠である。
- そのため、国内外の動向等も踏まえつつ、次世代研究インフラの構想を具体化・推進していくための検討体制として、AI for Science推進委員会の下、有識者によるワーキンググループを設置することとしたい。
- 本会議体において、今後の事業設計の具体化や、関係事業間の連携及び各種公募要領における要件設定等の議論を進めるとともに、「AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針」を踏まえた「次世代研究インフラ構築に向けた基本計画(仮)」を今年度内を目途に定める。